



がんば

島原市立第三小学校
 育友会報
 発行
 広報部
 【第137号】



今号の 主な内容

- ・ がたっ原会議 「あなたならどうする？」
- ・ 生まれ三小っ子
- ・ 読んでみくん・知つとつとー
- ・ 考えてみませんか 生活排水
- ・ これからの行事予定

	8	8	8	6 7	2 5
--	---	---	---	--------	--------

題 にとりとぼく
 3年3組 堀田 ゆきひで

円座を組み和やかな
雰囲気です!!

去る、十一月五日白山公民館にて、「我が子を含めた、現在の子育てをどう見るか? どうしたらよいか?」といった内容の座談会を開催しました。

出席者

父親代表 三名

母親代表 三名

先生代表 三名

会長、副会長、広報部員

といったメンバーで行なわれました。



遊びについて

母A―小さい頃から、習い事をさせていましたが、いやいや行っている様子だったので、思いきつてやめさせたところ、表情が明るくなり、外に元氣よく遊びに行くようになりました。

先A―少子化の影響で、子ども達が友達づきあいの仕方を知らない。親が教えてやらないといけない時代になっていると思う。

父A―子ども同士で考えたり、行動したりすることが少ない。昔は、縦のつながりの中で、社会的なルールを教えられた。今は、それぞれが忙しいから、それもできない。

先B―十年前ぐらいから、子どもの心が見えないと言われるように



なりました。私達は、『三間(空間)・遊ぶ場所)・時間・仲間(友達)』がないからと話し合いました。偏差値重視、友達との仲間意識の欠如、家庭での教育力の低下等が主な原因と考えられます。

父B―私は、博多で生まれ育った。どちらかというと都会だったので、遊び方をよく知らない。以前、東彼杵町に住んでいたが、東彼の子ども達は、だれにでも挨拶をよくしていたし、気持ちが和やかだった。島原に来て残念なのは、島原の子ども達が挨拶をしないこと

だ。東彼では、近所のおじさんからおこられたら、素直に、ごめんなさいと言っていた。島原では、他人からおこられることがない。親もおこらない。人間のふれあいがあれば、非行には走らないのではないだろうか。

先B―お父さんとの関わりの中で男の生き様を見せて、男としての価値感を教えていけばどうでしょう。子どもの目の高さに立って、子どもを信じてあげましょう。

父B―家族には何も言わせない位の圧迫感があるのですが、これからはコミュニケーションをとって本当のふれあいをしていかなければと反省しました。

ほめる?
しかる?

父B―東彼杵町では他人から怒られても、いいアットホームな雰囲気があった。

父D―今は家族に「こわい人」がない。親に一目置いている子はよその人の言うこともよく聞く。

考える
子育て
会議

どう思う!?

父C―反論ですが、怒ると反発するからほめて使う、共通のもので子どもとふれあうことが大事だと思います。

母B―ほめて励まして伸ばすのが理想ですが、現実にはしかってしまふ。甘えさせるのは大事だが、甘やかすのはダメ。生活する上で最低限のマナーは身につけさせたいので。

母C―親の姿勢が子どもに反映して感情的に怒っても言うことを聞かない。親が待てなくて、つい「早くしなさい」と言ってしまう。

父A―不完全な親の姿のままぶつかっています。六年生までは、厳しく怒って、たたいて育てます。

先C―ほめるのもしかるのも、一生懸命なら、子どもはわかっている。わが子のがんばっている姿を逃さずほめて欲しい。

先B―心のふれあいが子どもの教育には必要です。基本的生活習慣は三年生までにつけさせること。

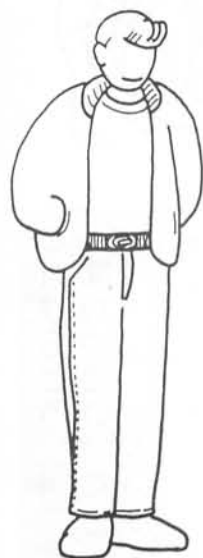
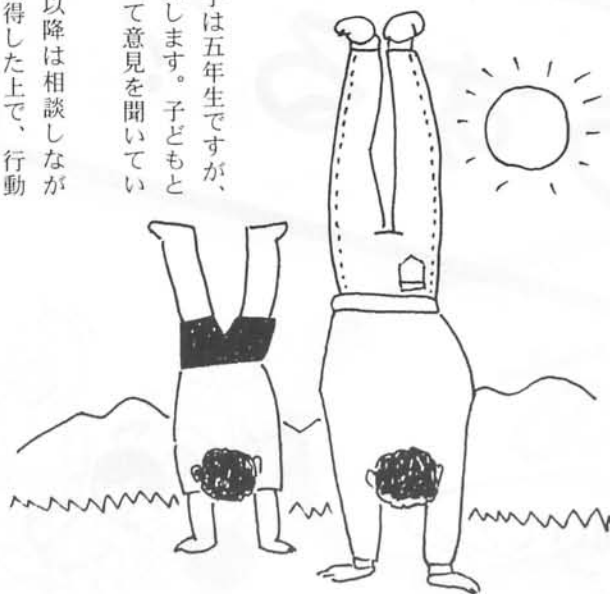
その後は自我が芽ばえて反抗します。

父C―うちの子は五年生ですが、僕が言えば反発します。子どもと対等に話し合って意見を聞いています。

先B―四年生以降は相談しながら、お互いが納得した上で、行動を起こすようにしましょう。

母A―ストレスを発散していない子はどんな風に育つのでしょうか。親の顔色を見て行動し、グツとがまんしてしまいます。

改めて
がたっ原
あなたは



非行について

父B―中学校で、今何がおこっているか知りませんが、『非行は家庭で生まれて社会で育つ』と言われていきます。六年生までの間に、まずい状況になるとき、どういふ変化が出だしたらそうなるのか教えて下さい。

先A―何年生から始まるかという線は引けないが、何らかの問題がある子には、声かけをしている。しかし、私達教師は、家庭に入れない部分がある。

先B―まず、服装や髪型、持ち物が変わります。そして、歩く格好が変わり、集団で行動するようになります。やはり、家庭や人とのふれあいが無いためでしょう。



先Bーぼつと目立つのは、二年生の終わり頃から三年生にかけての時期です。保健室に来るが、教室に行かない子もいました。問題がおきてしまつてから気づくことが多いようです。

まず大切なのは、子どもの話をしっかり聞くことです。子どもの気持ちになつて一緒に泣いて下さい。何か悪いことをしたとき、絶対に頭ごなしにしかつてはいけません。自分の生んだ子だから、親が信じてやることです。四年生以降は、しかり方もむずかしいですが、子どもの目の高さで物を見て話し合うことが大切だと思います。

ならどうする？

話を聞いて！



母Cー子どもが何かの信号を出している時にわかるように、いつでも子どもの声を聞くようにしたいと思います。また、自分の子どもだけでなく「皆んなの子ども」として、どうしたらよいか、地域ぐるみで考えていけたらいいなあと思います。

母Aー子どもの行動にあまり口を出さないようにして、もっと大きな気持ちで見ているように思います。

母Bー今後も、子ども達から目を離さないと、愛情をもつて育てていきたいと思っています。

先Aー知らない子ども達にも、声をかけていきたいし、周りにそうした大人達がいて、ウルサイと思われても声をかけて関わりをもつていけば、自分を見失わないで大人になつていけるのではないのでしょうか？

父Aー今後も、イジメ、不良行為はなくならないと思いますが、それらが手を振って町を歩ける世の中にしてはいいかなと思います。

これからどう
関わっていったら
よいか？

その為にも、大人が毅然とした態度で接しなければいけないと思います。

父Cー親が子どもに教え、伝えていくことが大切だと思います。また、共通の物(事)で子どもとふれあって、今後一緒に遊んで「子どもの笑顔」を見ていきたいと思えます。

先Cー教室(一年生)での出来事ですが、今までなかなか出来なかつたことが、ある日突然出来たことがありました。「子ども達は、目的とやり方さえわかれば必ずやれるのだ」ということがそのことでわかりました。子ども達が出来なくても出来るまでがまんして待つ、ということが大切だと思います。

父Bー「規律と倫理感」これを失つたら終りと思います。我が子もそうですが、他人の子ども達に対しても、その気持ちを忘れないようにと接していきたいと思えます。



- ① 毎日の生活の中で一度でも多く意志を使わせ、物事への判断、決断を子供自身につけさせ、命令は最小限にし、子どもに選択決定させることが必要ではないでしょうか？
- ② 子どもに押し切られないこと、どうしても「ダメ」ということは、命に直接関与すること、他人に危害を加えたり、本人が破壊的な行動を起そうとするとき、以外は「ダメ、ダメ」とあまり言いたくないこと。
- ③ 感情をコントロールする力が微弱な子どもが増えてきているようです。今は何でも望む物は手に入り、したいことは実現でき、危機感もなく、生活能力、思考力の低下した現象が見られます。また、他人に頼らなくても、食べることも、楽しみもある程度満足でき、個人主義の子どもが増えてきているように

あなたな



座談会を終えて

今回、座談会を開催するにあたり、心よく出席を承諾して下さいました方々に心よりお礼申し上げます。

過去に、座談会を行ない特集を組まれたのは、平成二年度発行の第一〇七号に、「今、養護教育(障害児教育)を考える。」と題されたものがあります。この時も、記事を元に、三小で取り組まれている障害児教育について考え直し見直すよい機会となったということです。

私達も、子育てについて、つい評論家のようになってしまう第三者的に高見の見物をしてしまっているのではないのでしょうか？この辺で、一人一人が、我が子も含め地域の子どもの健全育成の為に子育てについて考え直すよい機会となり、是非、学級部会の折りのディスカッションの題材として生かしていただき、家庭、学校、地域が手を結び子育てをしていくことができたかと心より願います。

最後に、座談会の内容を全てをお伝えすることができなかつたこ



10/29 遠足(1、2年生)

明るい



9/28 運動会

三小っ子



11/16 市民音楽祭(4年生)



11/9 りんごむき大会(5年生)

頑張る

元 氣



9 / 14 校内 すもう大会



9 / 28 運動会



集まれ



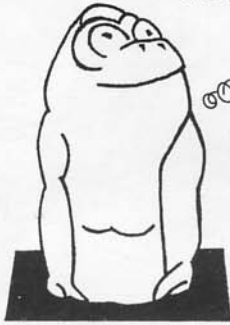
11 / 1 おいも祭り (2年生)

力を合わせて



8 / 11 精霊船作り (5、6年生)

ボクの名前 知つとつとー!!



ボクは、昨年二月
徳島県より転校して来まし
た。徳島には新町小学校に
新太というお兄さんがいる
んだよ。
答えはP7

読んでみ〜ん!

- 母と子 母と子社
- 人が育つ条件を考える 北水ブックレット1
- 子どもが教えてくれたこと 教育史料出版会
- 子どもの内に潜むもの 高山智津子著 清風堂書店出版部
- 吉野 弘著 〇こっちむいておかあさん 大和書房
- 新川和江 〇おかあさんあのね

考えてみませんか 生活排水!

去る10月27日白山公民館で「私にできる環境問題」と題した講習会が開かれました。

講習会に参加した 主人の助言で

小松逸子

環境問題が世間を騒がすこのころ、講習会から帰った主人が、「明日から洗剤を替える」と、いろいろ説明を始めました。頭では理解していても実行に移せなかつた私ですが、これを機に我家の合成洗剤は姿を消し、浴室、洗濯、台所に「せつけん」の登場です。私の身近な環境改善は、少しアレルギーを持つ娘のためにと始まりました。むずかしく考えず、「大好きな誰かさんのために」と皆さ人もいかがでしょうか。

みんな頑張った!!

- 12月1日 校内マラソン大会
- 12月6日 人権集会

これからの行事予定

- 12月14日 しめ縄づくり
- 12月24日 終業式
- 1月8日 始業式
- 2月1日 校内引き大会
- 3月20日 卒業式
- 3月24日 終業式

編集後記

さしたる信念もなく、子どもとの日々を愛しむだけの親としては、座談会に新鮮な驚きと敬意を感じました。あの場で話を聞いたこと、ワイワイガヤガヤ話が弾んだ編集作業は、広報部の特典でしょうか。参加下さった方々の「熱い思い」が、うまく再現できていないかもしれませんが「子どもがいるだけで幸せ」ってことを、今一度振り返るきっかけになれば幸いです。

(中村)

座談会に出席された方々の貴重なご意見は具体的でわかりやすく、大変参考になるお話だったと思います。しかし、これを素人集団が編集するので、どれだけ保護者の方々に伝わるのかがとても心配です。それと報告になりますが、長崎新聞の『ふれあい』に三小が掲載される事になりました。今、一生懸命制作にあたっております。来年の一月十九日の新聞を、ご期待下さい!

(岡野)